

平成19年5月1日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

上智大学教員就任にあたって



英語学科 坂本 光代

平成18年4月より上智大学外国語学科に着任致しました坂本光代と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

カナダ国トロント市で育った私は、日本に帰国するのは30年以上振りでした。上智大学着任前は、カナダの大学で教えておりました。正直、長年日本を離れていたということで、帰国することに対する喜び・期待と共に莫大な不安を抱えていたのも事実です。日本での教育はまともに受けたことが無い私が、日本の大学で教えられるのか？日本の気候・風習などについていけるのだろうか？不安材料は多々ありましたが、上智大学の英語教育といえば日本でもトップクラスにあることを知っていた私は、身に余る光栄として英語学科の一員として英語学科で教鞭を執らせて頂くことにしたのです。上智大学学生が優秀ということは存じておりましたが、学生の勤勉さ、向上心など想像以上で、嬉しい驚きでした。彼ら・彼女らの英語能力の向上に携われることを光栄に思っております。また昨年春から始まった大学院のTESOLプログラムでも教えさせて頂いているのですが、優秀な学生の集まりで、ディスカッションなども大変充実したものでした。

外国語学部学部長である吉田研作先生をはじめ、同僚の先生方にも恵まれ、未熟な私を暖かく見守ってくださっていることを日々感じております。応用言語学者で、バイリンガル教育専門である私にとって、同分野で活躍されている吉田先生から学ぶことは沢山あり、また専門知識を存分に活かせる職場にいられるということに感謝しています。

帰国後は自分でも驚く程日本での生活にも慣れ、やりがいのある仕事環境の中、楽しく充実した日々を過ごしております。今後も頑張って英語学科に貢献していけたら、と思います。どうぞ宜しくお願い致します。

「オールソフィアンの集い」で会いましょう

2007年度SELDA A 総会と懇親会のお知らせ

今年も「オールソフィアンの集い」に合わせてSELDA Aの総会を開催します。総会では、活動報告、議案審議、今後の活動等について皆様に語ります。多くの会員のご参加をお待ちしております。なお、総会終了後、懇親パーティーを予定しております。会費は無料、是非皆様お誘い合わせの上お越しください。久しぶりの母校で、たのしいひとときを過しましょう。

2007年度SELDA A 総会および懇親会

日時：2007年5月27日(日) 12:00 ~ 14:00

場所：上智大学第4号館183教室

『世界の道は四谷に通ず』

阿部 新 (平成7年卒)



外英を卒業して12年、私は現在スペインにいます。スペインの首都・マドリードにあるマドリード・アウトノマ大学というところで、客員講師として日本語を教えています。例えば、外国語学部で日本語に関する授業を受講してから、英語よりも日本語への興味が芽生え、日本語を教える仕事をしたいと思った時期もありました。しかし、日本語教師は常勤の仕事を得るのが難しいこともあって、当時は断念。一般企業へ就職しました。そんな気持ちのままでの就職だったので、やはり勉強したい気持ちが再熟し、その後大学院へ進学しました。大学院では8年かかって博士論文を執筆しました。そして、博士号を授与された直後、スペインでの仕事の話を受けたのでした。

日本語を教えるときは、基本的に日本語だけで教えます。ですから、スペイン語は仕事上では絶対必要というわけではないのですが、日常生活ではもちろん英語よりもスペイン語です。上智でも、大学院でも、スペイン語にはぜんぜん手を出さなかった私がスペインへ行くことになり、スペイン語で日常生活を営むことになるとは・・・。人生とは面白いものです。もちろん、「大学で勉強しておけば良かった」と思うこともありましたが、人間なるとかなるものです。スペインで上智出身の方々とお会いしたのも嬉しいことでした。特に、外英以外の出身の方々とも、ソフィア会の集まりを通じて「上智」を軸に広げることができました。また、私が勤務している大学に上智から交換留学で来ている現役大学生の方々とも交流が持てました。改めて上智のネットワークの広さ、ありがたさを感じます。

マドリードでの仕事はまもなく終わりますが、ここでの経験はもちろん大きな財産です。しかし、上智での4年間で私の大きな財産だということも再認識しました。「世界の道は四谷に通ず。」そして、四谷から世界へもまた、道が広がっていることを再認識しているところです。

『近況報告』

長南 さや佳 (平成16年卒)



私は、卒業後の2004年8月、スウェーデンの南に位置する第三の都市マルメ (Malmö) で生活を始めました。マルメは2000年に完成したÖresund橋でデンマークとつながっており、首都のコペンハーゲンまでは電車で約30分です。マルメ大学の発展、Öresund橋や、2011年完成予定のCitytunneln(地下鉄)などにより、マルメはこの10年間大きく発展を遂げています。

しかし、その発展の一方でマルメが抱えている問題もあります。スウェーデンといえば私自身「スウェーデン人は全員金髪で青い目をしている」と思っていたのですが、マルメでは金髪に青い目のスウェーデン人に合うことの方がまれです。スウェーデンは第二次世界大戦後、労働移民の受け入れを開始し、70年代初めには労働移民受け入れを中止、代わって難民の受け入れを始めました。現在マルメには169カ国からの移民が居住しています。マルメの人口は2006年1月の時点で約27万人、そのうちの26%は外国生まれの移民です。市内にはMöllevångstorget通称「移民の広場」があり、そこでは低い就職率、高い社会保障の依存率、不十分な言語習得などが問題として挙げられます。他のヨーロッパ地域と同じく、イスラム系移民に対する差別も課題の一つです。移民のスウェーデン社会への統合はマルメが抱えている大きな問題なのです。

私は今マルメ大学でInternational Migration and Ethnic Relationsという分野で研究をしています。2006年6月には修士号を取得し、2007年1月からは博士研究者として同大学より5年間の雇用契約を得ました。移民についての研究はスウェーデンでは比較的新しく、研究することほとんどが新しい「知識」となります。博士論文は、増加する異人種間結婚についてスウェーデン人がどのように感じているのかを、社会心理学的見地もまじえながら研究していく予定です。

マルメ市 www.malmo.se

マルメ大学 www.mah.se

卒業生短信

9月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください) 皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

この春、三男坊が法学部・地球環境法学科に入学し、我家に待望の上智大学生が誕生しました。長男が日大、次男が早稲田と続き、上智生誕生はほとんど諦めていましたので、バカ親は大変喜んでおります。

早速親父(私)が御世話になった草深先生に御挨拶に行かせたところ、先生の見事なおヒゲにビックリ仰天。さっそく、先生と仲良しになり、「僕は、外英の学科長先生と知り合いなんだ。」と友達に自慢して歩いているようです。

野球少年の息子は迷わず準硬式野球部に入部し、勉強もしないで毎日真田堀で泥にまみれているようです。

先日はザビエル祭の日に、休日とは知らずに登校し、授業がなくてキャンパスは祭の真最中だったとかで、本人はビックリ。おっちょこちょいは、親譲りのようです。以来、我家で彼のことを「ザビエル君」と呼んでいます。

息子から四谷の様子を聞いては、30年前を思い出しております。

黒川 晴彦(旧姓：神原) (昭和53年卒)

在学中は国際関係副専攻の今井圭子教授と下川助教授に大変お世話になりました。緒方貞子さんにあこがれて、国際協力の仕事を希望しておりましたが、一般企業に就職しました。内定中にNPO法人のワークキャンプにボランティアとして参加した際に知り合った方と結婚することになり入社半年で退社しました。宛先が旧姓のままでしたので、名簿登録の変更をお願いいたします。

館 歩美(旧姓：田中) (平成17年卒)

東京都の公立中学校で英語の教師になって15年目になります。実践的コミュニケーション能力を育成する現在の英語教育を進めていく上で、ソフィアで過ごした4年間は本当に有意義だったと、実感している今日この頃です。英語教育を通して、一人でも多くの人間性豊かな生徒をこれからも送りだしていきたいです

河野 敏也 (平成1年卒)

退職後は相変らずのバックパックスの一人旅。昨春は、南インド、デカン高原のヒンズー教の遺跡群そしてサビエル碑の黄金のコアへ。秋はタイランド、ミャンマー、カンボジアなどインドシナ半島へヶ月間の一人放浪の旅。

アンコールワット遺跡群では、パンティア・スレイ遺跡の修復に上智大学が活躍している状況を見て感激した。

ところで、「SELDAA」会報の年号表記が元号年、西暦年との混ぜこぜ記載は、混乱があり、是非とも西暦年に統一して頂きたい。

浜野 孝 (昭和39年卒)

以前は新聞編集演説(大衆前で)までしてた人が・・・平成13年1月14日は脳硬塞で生死をさまよい、現在奇跡的に回復、右半身不自由なれど、左手で食事、車椅子を自分で動かせるまでになりましたが、「文字は書けない」「話もできない」「自力でたたてない」辛うじてメロディーの発声が出る。に成りました。

山下 増憲 (昭和34年卒)

退職のご挨拶

陽ざしも少しずつ春めいてきました。いかがお過ごしでしょうか。ご無沙汰ばかりしておりますが、今年は小生の大きな節目の年なので、一方的ですが以下に近未来の予定をお知らせします。

昨年中に65歳を迎え、31年つとめた上智大学は今年の3月で退職となります（後任は新進気鋭の歴史学者・小塩和人教授、現日本女子大）。おかげで健康に異常なく、わずかばかりの年金も入るので、本などの執筆を続けながら、イタリア・トスカーナ地方や南米アンデス高地、逗子の海岸で過ごそうと思っておりました。

しかし現実はいつも夢想と異なった顔をしています。大学本部の意向もあって、歴史学科で「現代アメリカ史」を1クラス教えながら、「上智大学設立100年記念誌」編集のお手伝いをする事になりました。これは英語ではThe University Historianと言って、名誉あるポジションだそうですが、日本では「風呂敷包みをさげた囑託の老教授」という感じ。でも日露戦争後の軍国主義が燃えるさなかに生を受け、いじめられながら第二次世界大戦をくぐり抜け、戦後の表層的な国際化ブームの中で踊らされて成長した「バテレン大学」と言う物語は、なんだか自分の歴史と重なっているようで哀れさをさそい、いっちょやってみようかという気分になっております。

週に3日ほど・・・と言うことで、4月からは原則として火・水・木に大学に出ようと思います（中央図書館9階のL-922号室の片隅に机など据え付けてもらって）。また現役を退くにあたり、「偉そうで、忙しいふりをした大学教授」と言う役割についてもうんざり。袖ふれあった知り合いこそ大事にしなくてはと考えるようになりました。たまには四谷でスローなティータイムなどいかがですか。

2007年2月末日

トスカーナがはるかにかすんでしまった

松尾 弑之

4月から:上智大学名誉教授・同文学部非常勤講師・逗子クラシック音楽観賞会（副会長）

鎌倉ペンクラブ会員

メール:kazzmatsuo@mail.com

住所：〒249-0005 神奈川県逗子市桜山1-14-18

大使講演会

第三回

2006年10月24日

アルゼンチン共和国特命全権大使 ダニエルD. ボルスキ 閣下
「世界は今、異文化共生社会をめざして・・・」

平成18年10月24日（火曜日）に、在日アルゼンチン大使館の特命全権大使のダニエルD.ボルスキ氏をお招きして、生憎の雨天であったが、70人程の参加で、講演会が行われた。

ボルスキ氏のお話は、ほとんど、自国経済のことだったが、結局、メルコスール加盟国間の経済協力を強化して、自国経済の立て直しを図るということである。

講演の要旨は次の通り：

アルゼンチンは1816年7月9日、スペインから独立して、2回にわたる世界大戦には直接的には関与せず、各国への農牧産品供給国として利益を得た20世紀初頭には世界有数の富裕国であった。第二次世界大戦後、工業化偏重政策をとるが、産業構造の転換に成功せず、次第に経済は低迷した。

ペロン政権以降、顕著になった放慢財政や、1960年以降に頻発した政変や、マルビナス（フォークランド）戦争や、1988年のハイパーインフレーションによる富裕層の没落や、海外脱出が続くなど、経済は混迷の度を深めた。

その後、親米、親IMFを掲げたメネム政権の新自由主義政策により、1990年代には年率9%にも達する経済成長を遂げるなど、一時的には安定した。しかし、1999年に起きたブラジルのレアル切り下げで、ペソが相対的に高くなり、輸出競争力を喪失して、国際収支は悪化した。

その結果、通過危機（通貨ペソ対米ドル「ペック制」の崩壊）により、完全に暗転し、2001年には対外債務の返済不履行宣言を出す事態に陥り、アルゼンチンの国民経済は破綻した。そして国際評価は地に落ちている。

そして、現在、アルゼンチンは、メルコスールの加盟国となったことにより、南米諸国との経済交流の活性化による諸外国からの投資の増大に経済の復活をかけている。

キルチネル大統領は、2006年7月9日の「独立190年記念式典」で「われわれは、IMFにさよならを告げた」と演説した。IMFの干渉を排除する為に、百億ドル近い債務を完済した。そして、2000年末の経済破綻直後の失業率24%を今年5月末までに11.4%にまで、改善した。



以上のように、これからは、メルコスールに加盟したことによって、経済的復活を目指すという事であるが、ここでメルコスールについて説明すると、それは、パラグアイ、ウルグアイ、ブラジル、アルゼンチンの四カ国で構成される関税同盟として、1995年に発足した。加盟四カ国のGDPの合計は1995年でみると約8800億ドルで、これは当時のASEANの1.5倍、日本の6分の1の規模である。四カ国の人口は約二億人であるが、欧米の自動車メーカーが関税の特典を生かした生産体制を構築するなど、直接投資も増えて注目を集める市場となっている。

従って、当講演会のテーマである「世界は今、異文化共生社会」ということにリンクしていると思われる部分があるとしたら、それは前述した、メルコスールによる経済協力という事だと思うが、それはEU程のスケールではないが、今後のアルゼンチンの方針としてはっきり理解できた。

佐藤誠一郎（昭和53年卒）

第四回

2006年11月15日

駐日英国大使 グレアムH. フライ 閣下

「 "Avoiding Dangerous Climate Change "

『危険な気候変動の回避』」



フライ大使が用意なされた講義は「気候の変化」についてであった。何故大使が気候問題を語る？と訝しげな私達の反応を見て取られたのか、まずスーダン西部の100万人と言われる難民問題を挙げた。国連が解決しようと努力をしているが、この紛争も元々はサハラ砂漠の拡大によると言われる。気候が変われば、全てに影響する。専門家ではないが、と前置きしながらも達者な日本語で数々のデータをあげながら現状と対策の緊急性を分かりやすく論じてくださった。

まず、地球は本当に温暖化しているのだろうか。過去140年の温度変化、自然の温暖化の動きのほかに二酸化炭素排気量など、産業革命以来の人間の活動による温暖化の数値などの多くのデータを示しながら説明なされた。

次にこの気候の変化が経済面に及ぼす面からの考察をなされた。Sir Nicholas Sternによる“ The Stern Review on the Economics of Climate Change ”を紹介しながら、この問題への対策に全ての国の参加が今必要、と訴えられた。二酸化炭素排出量がダントツに多い米中を巻き込まなければ対策は実現しない。

ひとつの例として、英国の取り組みを紹介。京都議定書の目標20%減に達するのは難しいが17%位の減少の成果を挙げられたのは、抜本的な構造改革を行い努力を続けてきた為。15年間で排出量を下げながらもGDPの成長を遂げてきたという。産業界に努力を求めるだけでは難しい。英国政府は2003年の白書で再生エネルギー、原始エネルギーの必要性を説いた。

このまま地球の温度が上がれば、アマゾンの森林さえ消滅しかねない。またアマゾンの森林が無くなれば、温暖化はもっと進む。人間の体に良くないものは地球にも良くない。今また技術面で何が出来るかを考えるときがきている、と訴えられた。さらに興味を持たれた方は英国大使館のホームページおよび文中で紹介された“ The Stern Review on the Economics of Climate Change ”をご参照ください。

池沢なるみ (昭和48年度卒)

第五回

2006年12月5日

フィンランド国特命全権大使 ヨルマ・ユリーン閣下

「Finland2006:A country combining clean environment with world top competitiveness and education system

(フィンランド2006:世界最高の競争力と教育制度をもつ環境にやさしい国)」

この度ユリーン大使閣下におかれましては、ご多忙の折、わが上智大学にお起しいただいたことを感謝いたします。また、このような機会を設けてくださった、理工学部伊藤教授とソフィア会、ならびにSELDA事務局の皆様にご挨拶申し上げます。日本にとってフィンランドという国は、まだ直接的な関係が薄く、他のヨーロッパ諸国と比べてもどこか遠い存在でありがちですが、抜群の知名度を誇っています。それは多分に、今回の講演会の副題ともなった、教育



と環境配慮に長けた経済発展において優れた実績を残してきたからでしょう。大使閣下のお話を伺って、日本に欠けている経済大国としての資質と責務について改めて考えさせられた気がします。閣下は非常に落ち着いた物腰で、淡々とお話してくださいました。テーマを「経済と環境」に捉えて、フィンランド共和国の現在の社会・経済情勢および国際社会からの評価について解説していただいた後、どのようにして発展の一途を辿ったのか、大使ご自身がお考えの5つの要因——すなわち

1. 質の高い教育
2. 研究開発への投資
3. 政府による適度な規制と能率ある公共政策
4. 開かれた経済
5. 労働力に手厚い政策

——へと話は展開していきました。

経済発展あつての環境保全、という考え方が大手を振ってまかり通っていた四半世紀前の時点で、確固とした社会保障制度に基づいた男女共同参画社会と、環境に根ざした地域水平発展構想を描いていたフィンランド。大使閣下は、そのフィンランドが日本と大幅に異なるのは、政府公共機関の効率性と透明性だにご指摘になりました。

現にフィンランドは、世界で最も政治腐敗の少ない国と知られています。そう伺って、始めのうちは、第一次世界大戦直後からの、長い民主主義の歴史がそうさせるのかと考えました。しかし、一方で、公共部門は民間部門に規制を加えてきたことが経済発展を促進したとおっしゃるのです。

つまり、自由市場や人的資源開発部門への政府の積極的介入に民間が反対しなかったのは、その政府が多くの賛同を得るものだったこと以上に、官民共に長期的な視点を具えて健全な信頼関係を築いてきた点にあるのではないのでしょうか。我々の住む日本では、教育再生と実感ある経済成長/格差社会の解消が大きな懸案事項となっています。毎日の報道では、政治家による汚職ないし談合事件の実態が無謀に露呈されています。そして、小泉前首相の行った郵政民営化は公共部門の効率の悪さを改めるものでした。フィンランドの場合はこれと対極にあり、謂わば、効率の良い公共部門が民間部門の更なる発展に寄与しているという構造が垣間見られました。

環境問題に対する積極的な取り組みについても同様です。世界でトップの持続可能な開発指数を誇り、京都議定書を全面的に支持する姿勢からも伺

えるように、フィンランドの環境保全への感心は非情に高いものです。民間企業は、研究機関の観智と政府の多大な研究開発投資、メディアによるPR協力を得て、環境破壊の伴わない経済発展を実現しているのです。こうした道徳美を観念に終わらせない社会は、将来を担う子どもに幅広い見識と責任を養わせる、画期的な教育制度が醸成するところである、と強く感じました。

教育課程を履修すると、度々OECD学力テストでフィンランドが優秀な成績を残したことが話題に上るのですが、閣下にご紹介いただいた、博士課程を修了した者のみが教師の資格を付与される制度、親が教育へ寄せる関心の高さの他にも、初等教育段階から専科担当教師が授業準備に勤しみ、定期的に授業評価と研修期間を設けるなど、入念な計画が練られているようです。

国際関係を学ぶ私から、余りあるフィンランドの魅力をもう一つ付け加えさせていただくならば、G8などの大国とは一線を画した歩みを続けながら、周辺諸国から尊敬を集めてきた、多角的アプローチが挙げられます。国の人口や経済の規模も穏当で、軍事同盟を一切持たない国家が、国際社会においてこれだけの存在感を持つことは、難しいと考えられてきましたが、フィンランドは圧倒

的な反例を示してきました。特に、広く知られている破綻国家への経済援助や平和維持の活動は、日本がその経済力に見合った関わりを充分持っていない分野で、大いに学ぶところがありそうです。今度、EU議長国のお役目が回ってきたフィンランド共和国は、一層EU諸国に道義的責任について働きかけていくでしょうし、その波は既に日本海岸線に到達しているのです。

日本政府は、いや責任を分かち合うべき社会全体は、こうした変革の波に乗ることができるのでしょうか。大使閣下は、フィンランドのモデルを強要することなく、世界共通目標の達成のために、各国がふさわしいモデルを追い求めることを提言してくださいました。講演会に参加して、「国民一人ひとりが、表面的な議論ではなく、一步掘り下げた意見交換をできるだけの知識と分析能力を養わねばならないのだ」という危機意識を植え付けられたのは、私だけではなかった筈です。

興味を持たれた方は、是非駐日フィンランド大使館のウェブサイトを<http://www.finland.or.jp/ja/>をご参照下さい。ユリオン大使閣下の挨拶文も掲載されています。

外国語学部英語学科4年 伊藤宏司

昨年好評だった大使講演会ですが、今年も昨年と同じく、5月、6月、7月、10月、11月と12月の6回の開催を予定しています。第6回目となる5月は、アイルランド大使を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

大使講演会 開催予定

日時：2007年5月30日（水）18：30から20：00

場所：上智大学 2号館 17階 大会議室

参加者：在学生、卒業生。無料です。

申し込み先：ソフィア会事務局

Fax 03-3238-3028 URL <http://www.sophiakai.gr.jp/jp/>

現在、フランス、フィリピン、タンザニア、ルクセンブルグ、メキシコ、デンマーク、コートジボアール、ドイツ等の大使との交渉を進めております。決定次第 SELDAA のホームページで詳細を発表します。

~ 長谷川真弓さん講演会についての感想 ~

Hearty Applause to Great Talent

横山桂子 (昭和38年卒)

まずはじめに長谷川さんの素晴らしい御才覚、パワー、魅力に心から拍手をお送りしたいと思います。実に巧みで魅力的な話術、豊富なトピックス、痛快なユーモア、ユニークな発想にすっかり引き込まれて、お腹を抱えて笑いながら楽しませていただきました。

We thoroughly enjoyed her talk というところでしょうか。よどみない話し方で私たちを魅了し、笑わせて下さっているのが見事でした。天性の才能が、趣深い秋田の風土のなかで生まれ、豊かな人生体験を経て、長谷川真弓というのびやかで、個性あふれる才女をつくりあげたのだと思います。

それと同時に私は、破格のユーモアがかもしだす笑いの中のいくつかの大切なことを学んだと言う思いがしています。例えば、ご滞在になられたカナダでカナダ人の良さを感じられたこと、ブッシュ大統領がカナダ人のように自分たちと違う考え方、宗教などを受け入れていく tolerance を持っていれば、現在の世界情勢は少し違っているだろうというお話はとても良かったです。

また、不幸に遭遇しても、目先の不幸にだけ心をとらわれずに待っていれば、やがて幸福がおとずれるというご先祖さまの体験談は多くの人々に聞かせてあげたいと思いました。

そして何よりも私は長谷川さんの愛情に満ちた、温かい子育てを想像してつくづくと考えました。世のすべてのお母さんたちが、例えば、「黄色いピーマン」の遊びのように、楽しく独創的なアイデアでお子さまたちと一緒に時間を過していくなら、時々テレビのニュースで知る耳をおおいくなるような家族間の悲劇は少なくなるであろうと。

最後のパートを占めた秋田弁のパフォーマンスはただもう偉大なるタレントとしか言いようがありません。さすがは語学の達人、お国のなまりを縦横に駆使してご披露し、その内容の面白さもあって、会場に笑いの渦を巻き起こして下さいました。(私などもう少しで椅子から転げ落ちるところでした。) 彼女は全国の俳優さん、女優さん、たちの言語指導者になれるのではないのでしょうか。

笑うことは健康に良く、最高のストレス解消と言われています。長谷川さんのこの度の講演が私たちの身体と心の健康を大いに増進させて下さいましたことに感謝しています。ありがとうございました。

長谷川真弓氏のプロフィール

上智大学外国語学科英語学科卒業。ご本人曰く、“超ウルトラ楽観主義” を生きる60代女性。パンクパーの雑誌「ふれいさー」専属ライター。最近開拓社より出た「まずくてありがとう——爆笑エッセ—— from カナダ」が人気。



上智学院100周年事業について

従来、SELDAは上智ソフィア会の協力は得ながらも、組織としての有機的なつながりはありませんでした。この度、SELDAはソフィア会と正式な手続きを完了して個人情報の管理・共有ができるようになりました。同窓会としては、今後、さらにソフィア会との連携を深めていきたいと思っております。つきましては、会員の皆様には昨年秋に大学から「上智学院100周年記念事業募金」の趣意書が届いたと思いますが、下記のごとく、ソフィア会が小額でも受け付ける口座を開設しました。皆様のご協力をお願いします。

上智大学ソフィア会募金委員会からのお願い

上智大学ソフィア会では、上智大学創立100周年記念募金に積極的に協力するために、1万円未満の金額でも気軽に募金していただける口座を独自に設けました。ご入金いただいたお金は、総額が10万円以上になる度に、ご協力いただいた方々のお名前と共に、責任を持って上智学院財務局募金室に届けます。恐縮ですが、振込手数料はご負担をお願いします。なお、1万円以上振り込まれた場合は、上智学院より証明書が発行され免税措置が受けられます。是非、母校の将来のためにご協力をよろしくお願い申し上げます。

<お振込先>

郵便振替0013-8-483122「100周年募金ソフィア会口座」

郵便局から郵便振替で送金される場合は、払込人の住所・氏名・電話の記入欄にもれなくご記入の上、通信欄に「卒年・学部学科」をご記入ください。

銀行振込 三井住友銀行 麹町支店(店番号 218)

普通預金口座 8792914「100周年募金ソフィア会口座」

銀行からのお振込の場合は、「お名前・ご住所・お電話・卒年・学部学科・お振込額・お振込日」を郵便・FAX・メールのいずれかでソフィア会事務局までお知らせください。

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学ソフィア会内

E-mail:sophiabokin@sophiakai.gr.jp

電話 03(3238)3041 FAX.03(3238)3028

上智大学ソフィア会募金委員会

委員長 本多義人(ソフィア会会長)

座長 和泉法夫(ソフィア会副会長)

委員 細川佳代子、大河原毅(ソフィア会副会長) 戸川宏一、劔持睦子、秋元征紘、槇原尚樹、師岡文男、阿部修平、三溝真季、宮城信夫、高橋喜代子、今井雅人、矢野祥子(ソフィア会常任理事)

SELDAのホームページについて

英語学科同窓会が設立されたのは1983年。そして、今や、英語学科の卒業生は7500名を越えています。ホームページは2004年5月にリニューアルしました。「知らないなんてもったいない」をキーワードに、会員に対して同窓生の動向や英語学科の様子などのタイムリーな発信に努めています。まだご覧になっていない方は、是非覗いてみて下さい(<http://seldaa.net>)。20年以上に亘り毎年2回発行している第一号から最新号の会報誌までの全ページを閲覧することもできます。会員間の交流に、そして、情報収集のツールとしてご利用ください。

会員の皆様へのお願い

上智大学英語学科同窓会(SELDA)の個人情報管理について同意いただけるかどうか、ご確認をお願いいたします。

SELDAでは、昨年4月からの個人情報保護法施行に伴い、SELDA会員の個人情報の管理にこれまで以上に慎重に対応しております。そのガイドラインについては、会報誌第41号でご報告し、SELDAホームページ(<http://seldaa.net>)上でもご報告しておりますので、会員の皆様には内容をご覧いただきご確認をお願いいたします。このガイドラインの内容に同意されない場合はSELDA事務局までお申し出ください。それぞれに対応させていただきます。

住所変更の通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください。同窓会事務局でいただいた変更通知は、「個人情報保護法」を尊重し必要な手続きの上、ソフィア会事務局にも通知します。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

また、最近では市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

住所・勤務先の変更等は、同封の葉書をお使いいただくか、SELDAAのホームページの「住所・勤務先変更フォーム」(http://seldaa.net/about/change_form.html)から送ってください。

SELDAAより、募集とお知らせ

SELDAAでは、皆様よりこの会報に掲載する記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせはこちらまで。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局
FAX.03-3238-3910 E-mail:info@seldaa.net
(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円
一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)
終身会員 : 一括払い 20,000円

あなたの会費納入状況

英語学科同窓会では、昭和32年から平成18年までの英語学科卒業生7,506名の会員データをコンピュータ化しました。それに伴い、会員の納入状況をより明確にお伝えすることができるようになりました。封筒の宛名ラベル右上にある日付は、例えば、「2006年3月31日(2005年度分)まで会費が支払われていることを示します。会費は年度単位で管理されています。「終身会員」「名誉会員」は表示の通りです。会費未納の方は、ラベルの右上に「願」と書かれています。

事務局では、データの正確な入力に最善を尽くしておりますが、表示内容に疑義や質問のある方は事務局までお知らせください。

SELDAA 常任委員 (2006年3月現在)

名誉会長 / 草深 武 (英語学科長)
会 長 / 石川 雅 弥 (昭和40年卒)
副会長・事務局長 / 池 沢 成 実 (昭和48年卒)
副 会 長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)
会 計 / 飛 弾 誠 (昭和53年卒)
会 報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
常任委員 / 東郷公徳 (昭和62年卒)
成瀬洋子 (昭和48年卒)
根本竜太郎 (平成15年卒)
林めぐみ (平成13年卒)
監 査 / 落合彰子 (昭和46年卒)
安西徳子 (昭和49年卒)